

## 堀川再生の会・五平太会長

中村 恭子

### 『私の夢：堀川運河』

#### ウォーターフロント計画』

私の夢は、折尾駅前の堀川を解放し、川にかかった木の橋（太鼓橋）を渡って駅へ行く。その下を川ひらた（五平太舟）の船頭さんが、五平太節を歌いながら（遊覧船として）のどかに竿をさしている。

駅前広場は車のない、人を癒す、大正ロマンの異空間に。赤レンガのネジリマンポをローマのコロッセオのように夜ライトアップして広場のオブジェに。折尾駅を降りると、目の前に見たことのない、幻想的な広場が飛び込む。

春には柳の木々にボンボリをつるし、冬にはイルミネーションを飾って来る人をなごみ、楽

しませる。

さて、折尾駅からテクテク柳並木の堀川沿いを散歩すると、中国の麗江古城の川べりに立ち並ぶ店のようになり、可愛いカフェ、アンティークの店、ビヤホール、本屋さん、雑貨店、駄菓子屋、ミニ音楽堂等、いろんな店をはしごしながらいつの間にか歩いてしまふ散歩道に（麗江古城には、一日10万人が訪れる）。

川べりには、パラソルと椅子が何個も置かれ、近隣の海の幸のさざえやイカ等を焼いて食べさせるシンガポールの屋台村のようにビールやワインで旅人を迎える。

かの有名な山形県の川べりでは年に1日だけの特産物の里芋と牛肉を炊いた：芋煮会に全国から約10万人訪れ、街づくりの仕掛人たちの情報交換の場にもなっている。

マジソン群の橋を模倣し、橋の中の椅子で夕涼みを楽しみ、

ホタルの乱舞を觀賞。笹ふねを浮かべて遊んでいる子どもたちを、川岸から眺めている老夫婦の優しいまなざし。昔話の桃太郎の「おばあさんは川でせんたく」：できる、板のテラスが川の中に張り出し家族連れで昼の弁当。シジミやウナギも取れ、子供たちが歓声をあげて川エビを網ですくっている。

大膳掘りのあつた線路を越えて、折尾高校付近の緑の木立ちの中に入ると、木洩れ日がチラチラと輝きながら私たちを優しく迎える。夜の竹林は、ヒメボタルが鋭く光を放ちながら飛ぶさまを、カップルで息を殺して見る。

十数万人の人々がノミとツルハシで掘ったという堀川の「ノミの跡」線刻文字に400年前の先人たちの苦勞に思いを馳せる。

一番の難所：一枚岩の硬い岩盤の山を高さ50m切り貫いた

田久作さんの旧宅には、当時のサルスベリの木が今でも庭に花を咲かせている。

一説では、黒田継高公を祭っているという河守神社にお参りし（昔、有料の川につき、ここで通船料を払った場所）、折尾駅へUターン。

折尾駅で自転車の貸し出しもよし。歩いて片道20分。

近代化産業遺産に国から認定された堀川運河は地域の宝。

皆さん、もっともっと私と一緒に夢をみませんか？



折尾駅周辺 堀川運河

こすげ のりかず